

性能評価型(事例20) 逆洗回数と循環水量を減らした事による水質改善事例

【槽内状況】



維持管理要領書より 5人槽 逆洗設定1日2回(各5分、バルブ開度70~90%) 循環水量(1.4~2.10/分)

事例番号	20		浄化槽メーカー	大栄産業㈱		
処理方式	性能評価型 BOD除去型		浄化槽型式	FCP		
法定検査日	平成 24 年 10 月 9 日		人槽	5人槽	使用人員	6人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	1未満	1未満	—	1未満	透視度	15度
堆積汚泥厚(cm)	21	35	—	30	DO	0.3 mg/ℓ
透視度(度)	13	14	10		pH	8.0
法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	1次処理流出水透視度14度から2次処理水の透視度が10度に低下している。 処理水槽底部に堆積汚泥が30cm堆積している。 逆洗設定:1日2回(各5分、移送水量18ℓ/分、バルブ開度70%) 循環水量:1.6ℓ/分 槽内水位HWL以下 日平均汚水量 1.26m ³ /日 採水時間9:10				
	対策	2次処理槽の負荷が高い為、手動逆洗で汚泥移送を実施する。 2次処理槽の負荷が高い為、循環水量1.0ℓ/分に逆洗回数も1回に減らす。				
保守点検からの措置 返信内容	10月12日	上記の通り調整する。			透視度	13度
					DO	0.4 mg/ℓ
					pH	8.0
	10月26日	手動逆洗にて汚泥移送を実施する。 処理水槽の堆積汚泥厚25cm。			透視度	16度
				DO	0.4 mg/ℓ	
				pH	8.0	
11月9日	手動逆洗にて汚泥移送を実施する。 処理水槽の堆積汚泥厚17cm。			透視度	23度	
				DO	0.5 mg/ℓ	
				pH	7.8	
11月26日	透視度回復する。 処理水槽の堆積汚泥厚8cm。 12月中旬、保守点検まで様子を見る。			透視度	31度	
				DO	0.6 mg/ℓ	
				pH	7.4	

【ポイント】



① 処理水槽の堆積汚泥厚
30cm(多い)

② 担体流動槽内にSSが多く浮遊している。

③ 逆洗直後の移送汚泥の状況
密度が高い。